

校内研修計画

甲州市立勝沼小学校

1 学校課題

これまで本校では、国語力を「獲得する知識や技能などが複雑に絡まり合いながら身に付いていく総合的な言語能力」ととらえ、特に国語科の授業実践を通して研究を進めてきた。同時に、言語環境づくりや読書活動の推進にも取り組み、大きな成果を上げることができた。特に言語環境づくりや読書活動の推進については、勝沼小学校の財産として継続して取り組んでいくことが望まれる。

平成21年度までの研究を通して本校の児童を見ると、友だちの話を興味をもって聞いたり、教材文を楽しみながら読んだりすることはできるようになってきた。しかし、自分の考えを明確に文章に表したり、相手に分かりやすい文章を書くなどについては、まだ不十分な面が見られる。

このような実態から、本校では、児童の「書くこと」の力を伸ばしていくことが課題と考えられる。

2 研究主題

「自分の思いをもち、豊かに表現する児童の育成」

～「書くこと」の力を伸ばす授業づくりを通して～

3 主題設定の理由

知識基盤社会と言われる現代、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成が求められている。基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、主体的に判断し行動することは、単なる暗記や教え込みでは身に付けさせることが難しい。学んだことを書いたり話したりしながら、自分の思いを導き出し、表現するといった学習内容への働きかけを続けることでより確かに身に付いていく。

本校の教育目標は「『かしこい子』を育てる～知・徳・体の調和のとれた、心豊かな勝沼小学校の児童を育成する～」である。そして、めざす児童像の一つとして「考えて学習する子ども」を設定している。「書くこと」を通して自分の思いを表現していくことは、めざす児童像に迫ることができると考える。

本校では、平成18年度から全ての学習の基盤である国語力の向上を中心に据えた研究を行ってきた。また、平成22年度・23年度の2年間、NIE（教育に新聞を）実践校の指定を受けていた。昨年度は、研究の2年目ということで、「新聞に親しむ」ことを発展させながら、「新聞を授業で活用する」ことを目標にして研究を進めてきた。その結果、新聞を活用した「書くこと」の授業づくりを行うことにより、多彩な取り組みが考えられ、児童の興味・関心を高めることができた。また、読書活動や言語環境づくりをベースに、新聞を活用した「書くこと」の授業を工夫していくことにより、「書くこと」の力が伸び児童の国語力が向上していくことが検証できた。

そこで今年度は、「書くこと」の力を伸ばす授業づくりについて、昨年度までの研究成果をもとに児童一人一人に「書くこと」の喜びや「書くこと」の満足感が得られるような研究をしていきたい。「書くこと」の力を伸ばすことは、考える力・判断する力・表現する力を高め、児童に自分なりの見方・思ったこと・わかったこと・感じたことなどの「自分の思い」をもたせることにつながり、さらには様々な方法で書く・よりよく書く・わかりやすく書くなどの「豊かに表現できる」児童を育てることになると考える。また、「書くこと」の研究は3年目となるので、三年間の研究のまとめにしていきたい。

研究を進めるにあたっては、昨年度までの研究の成果を生かしながら、国語科に限らず他の教科においても「書くこと」の力を伸ばすために、児童の実態に合わせた効果的な指導過程や指導の手立てについて研究を進めていきたい。

また、今年度から二年間、甲州市確かな学力育成プロジェクトと関わって「Q-U」調査を活用した学級づくりや保護者・地域住民との連携にも校内研の中で取り組んでいき、研究主題に迫っていきたい。

以上のことから、「書くこと」の力を伸ばす授業づくりを通して、自分の思いをもち、豊かに表現する児童を育成していくため、本主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 児童の実態把握

(2) 「書くこと」の力を伸ばす授業づくりをし、授業研究で検証する。

(3) 一人一実践を公開し、教師としての力量を高める。

(4) 「Q-U」調査の実施と分析・活用の充実。(甲州市確かな学力育成プロジェクト)

(5) 保護者・地域住民との連携。(甲州市確かな学力育成プロジェクト)